

羽生市立小・中学校適正規模・適正配置 に関する基本方針について

羽生市教育委員会

目 次

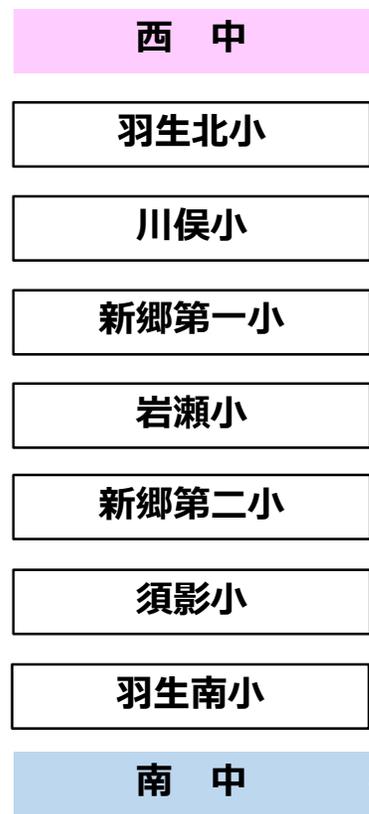
- 1 具体的な再編成の計画
- 2 学校再編成の目的
- 3 なぜ学校再編成が必要か
- 4 学校再編成の基本的な考え方
- 5 学校再編成による効果
- 6 （仮称）再編成準備委員会イメージ
- 7 スクールバス運行イメージ

1 具体的な再編成の計画

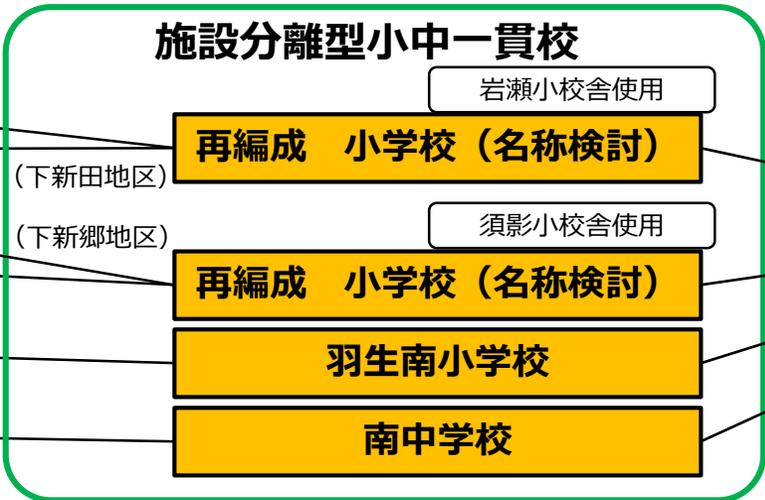
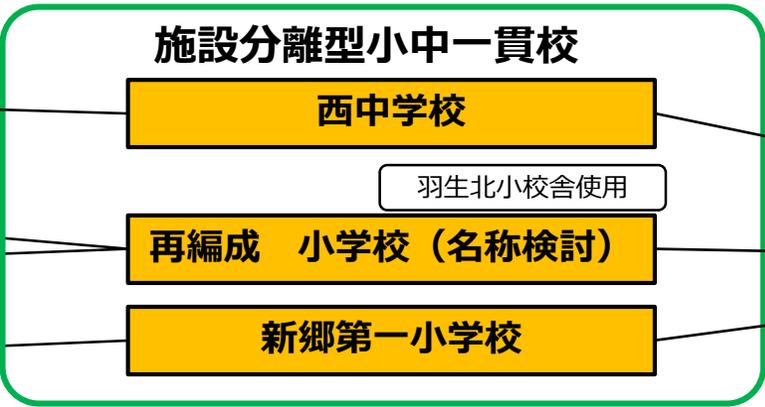
令和11(2029)年度

将来

西中学校区



※現在の中学校区の変更はありません。



義務教育学校
西部地区
(仮)

義務教育学校
南部地区
(仮)

令和7(2025)年度

東中学校区



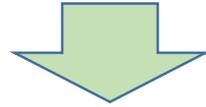
義務教育学校
東部地区
(仮)

2 学校再編成の目的

**将来の子どもたちにとって
よりよい教育環境を整えるため**

義務教育の目的の一つ

「個人の能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培うこと」



切磋琢磨が必要

子どもたちが多様な考えに触れ、認め合い、話し合い
友だちの考えと折り合いをつけ、合意形成を図るということを
学び、経験する必要がある。



ある程度の人数で学習過程を積み重ねることが必要

こうした「よりよい教育環境」整えるため、学校の再編成が必要です。

3 なぜ学校再編成が必要か

(1) 児童生徒数の減少による学校の小規模化

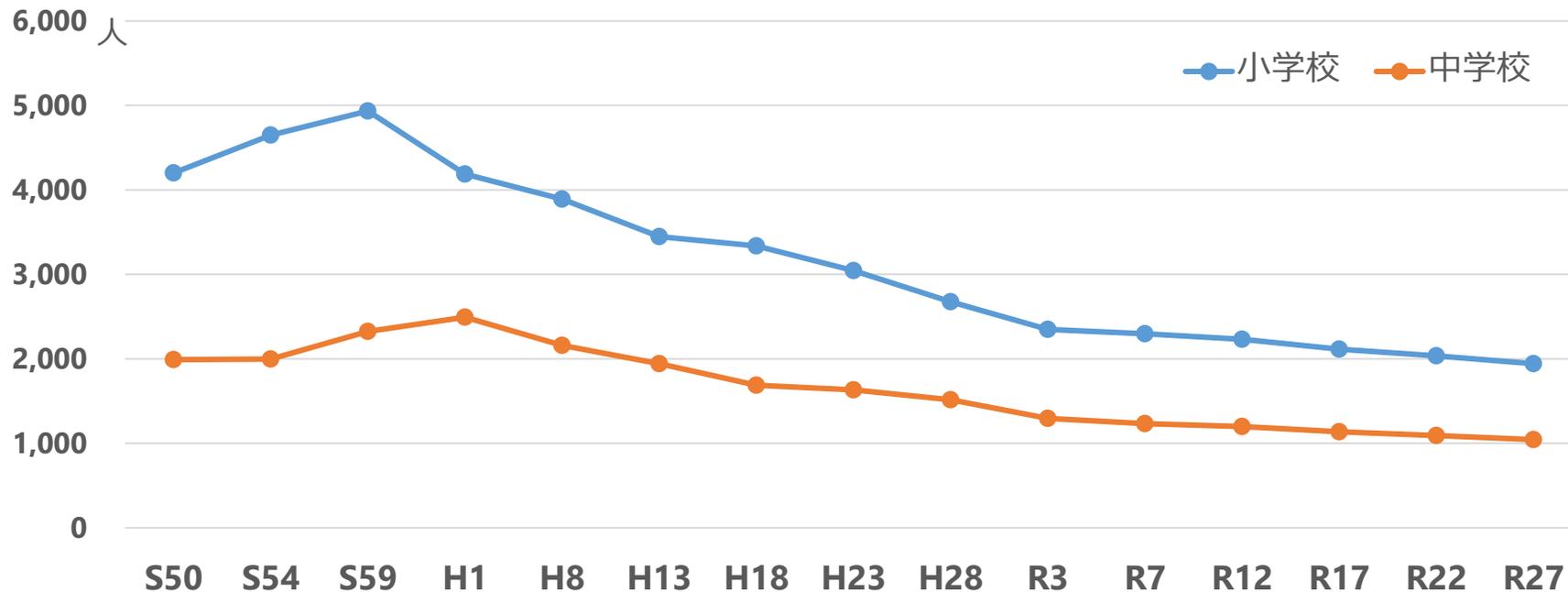
小規模校のメリット : 子どもたち一人ひとりに目が届きやすく、きめ細やかな指導ができる等

小規模校のデメリット : クラス替えができず人間関係の固定化、学校行事の縮小等

児童生徒数の減少の進行  **デメリットの方が大きくなることが懸念される**

子どもたちが集団の中で多様な考えに触れ、お互いに切磋琢磨しながら学力・学習意欲を高め、心と身体を健やかに成長できるようにするためには、**一定の集団規模を確保することが必要**

市内小・中学校の児童生徒数の推移・推計



3 なぜ学校再編成が必要か

(2) 学校施設の老朽化の進行

ほとんどの学校が建設後40年以上が経過

今後、施設の安全と機能の維持に多額の費用がかかることが見込まれる。

学校施設の改修サイクルを持続可能なものとし、効率的に教育環境を整備していくことが必要。

 **学校の再編成が必要**

4 学校再編成の基本的な考え方

(1) 望ましい学級数の維持

すべての小学校においてクラス替えが可能な規模（1学年2学級以上）となるよう再編成を行います。

(2) 小中一貫教育の推進と義務教育学校の設置

小中一貫教育を推進するとともに、将来的に義務教育学校を設置します。

(3) 学校施設の集約

再編成の進捗に合わせ、過剰となった施設を廃止し、施設維持に係る財政負担を軽減します。

5 学校再編成による効果

(1) 望ましい学級数の維持（クラス替えが可能な規模となることで）

- ① 児童生徒が集団の中で、多様な考えに触れ、認め合い、協力し合い、切磋琢磨することを通じて思考力や表現力、判断力、問題解決能力などを育み、社会性や規範意識を身に付けることができます。
- ② 児童生徒の人間関係の固定化や序列化を防ぐことができます。
- ③ 運動会や修学旅行などの集団活動や学校行事の教育的効果が高まります。
- ④ 学年で複数の教員がいるため、教員間での研修や研究が行いやすく、教員の指導力や資質向上に役立ちます。また、令和4年度から導入された小学校の教科担任制を普及していくには、一定の教員数を確保する必要があります。
- ⑤ 経験年数、専門性、男女比等バランスのとれた教員配置やそれらを生かした指導の充実を図ることができます。
- ⑥ 緊急時における支援体制がとりやすく柔軟な対応ができます。
- ⑦ P T A 活動の活性化につながります。

5 学校再編成による効果

(2) 小中一貫教育となることで

小中学校9年間の学び（学習面）と育ち（生活面）の連続性を重視することによる児童生徒の学習意欲の向上と、いわゆる「中1ギャップ（子どもたちが小学校から中学校への進学に際し、新しい環境での学習や生活に不適応を起こすこと）」の解消により、確かな学力と豊かな心の育成につながります。

- ① 義務教育9年間において育む知・徳・体の共通理解
各校や地域の特色を生かした一貫性のある教育活動を行い、地域を愛し、次世代の担い手となる心を育みます。
- ② 教職員相互の連携の活性化
小中一貫教育によって育みたい力を共通理解し、教職員相互の連携を活性化し指導力を高めます。
- ③ 小学校から中学校への円滑な接続の推進
小中学校の交流を一層進め、小学校から中学校への円滑な接続を図ります。
- ④ 9年間の発達の段階に応じたカリキュラムの改訂・活用
小中学校9年間を見通したカリキュラムを活用し、子どもたちの学力・体力の向上と生徒指導の充実及び不登校問題の解決を図ります。

5 学校再編成による効果

(3) 学校施設を集約することで

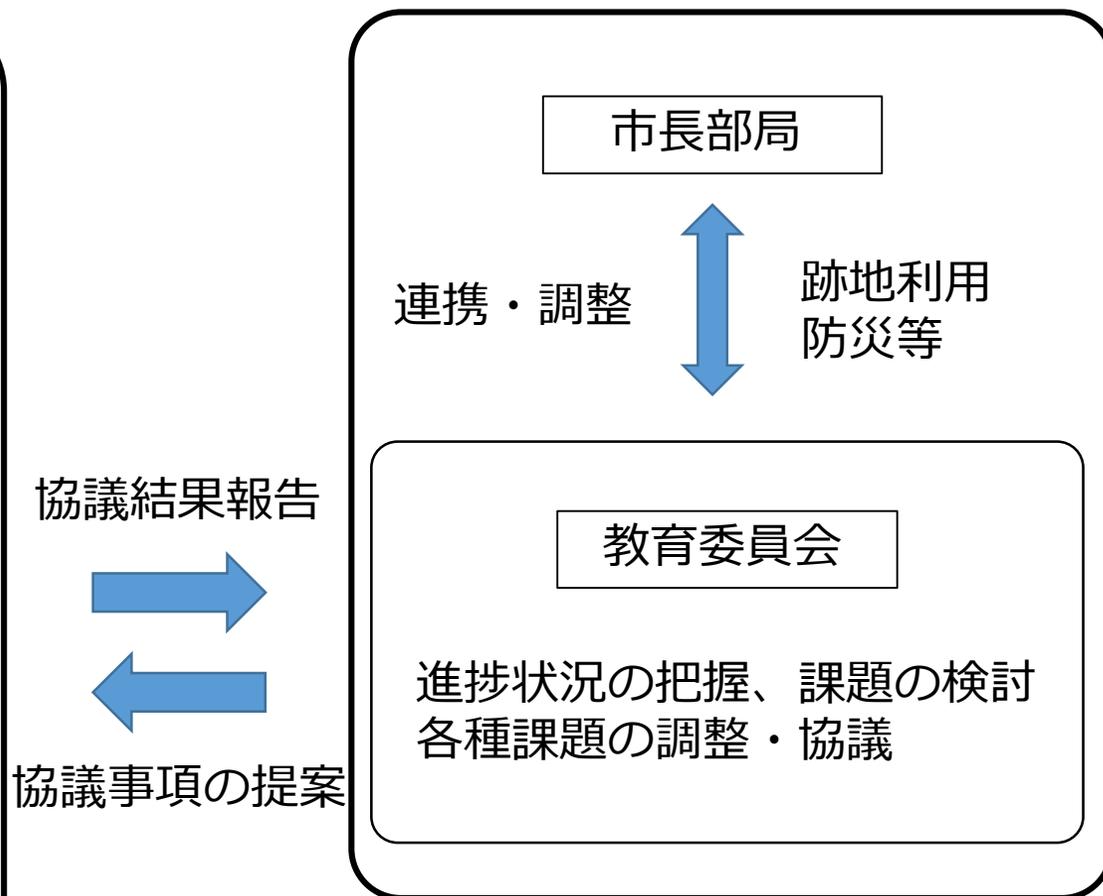
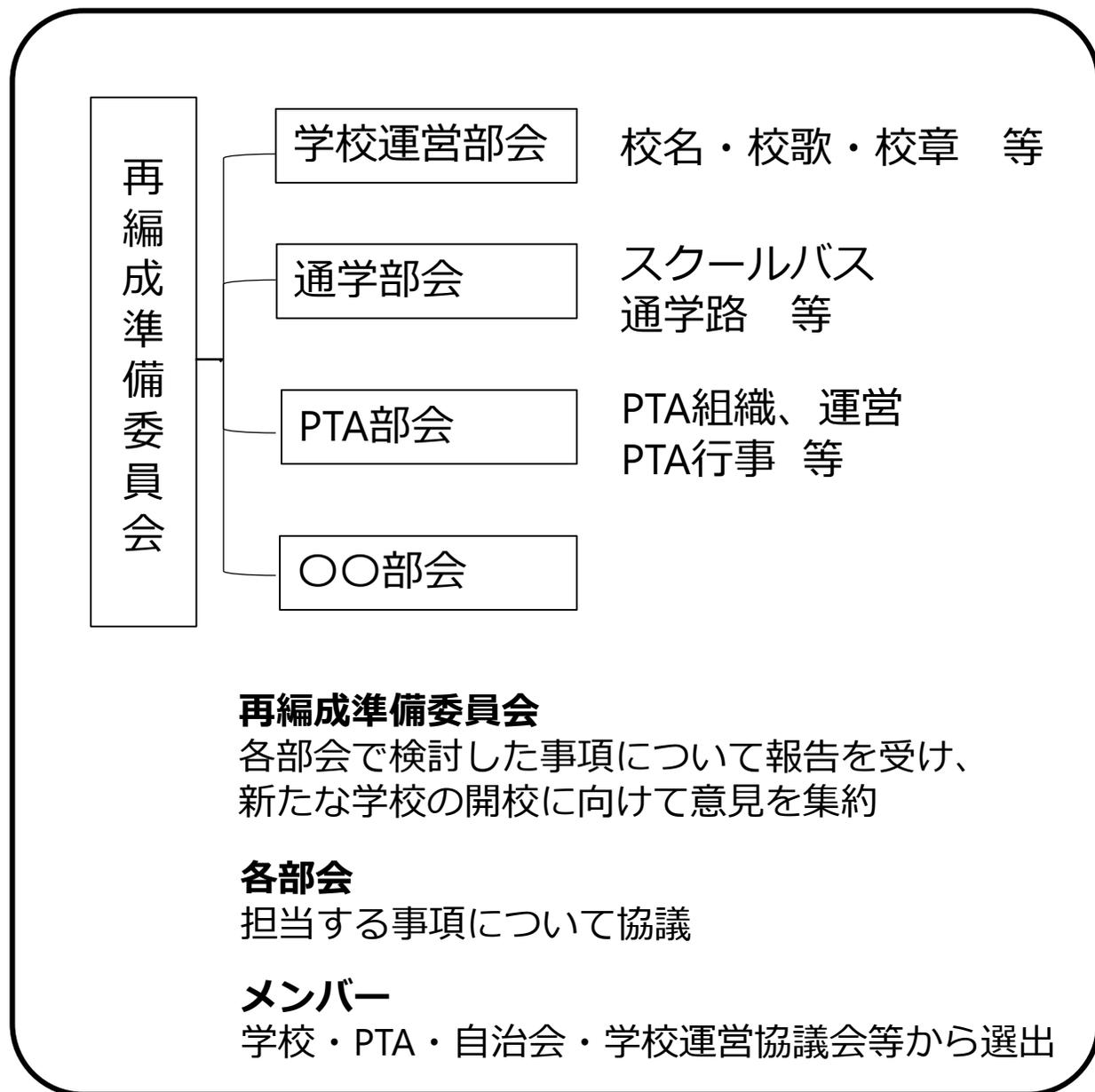
学校施設を集約による施設維持管理経費の削減により、限られた予算を再編成後の学校へ投資することでよりよい教育環境を確保することができます。

各学校の校舎及び体育館は、建築後40年以上経過した施設が**全体の75%(30棟/40棟)**を占め、それぞれが老朽化しています。構造体の耐震化は完了し、大規模改修工事を実施した施設もありますが、今後全ての施設の安全の確保と機能の維持をしていくことは大変困難です。児童数の推移と学校の再編成の進捗に合わせ、過剰となった施設を廃止し、施設維持に係る財政的負担を軽減します。

【小学校1校を廃止した場合の更新費用の削減額】（羽生市公共施設個別施設計画（令和3年3月策定）による）

・小学校校舎の更新費用	6.10 億円	} 1校あたり最低8.04 億円以上の削減効果
・小学校屋内運動場更新費用	1.80 億円	
・小学校プール施設更新費用	0.14 億円	

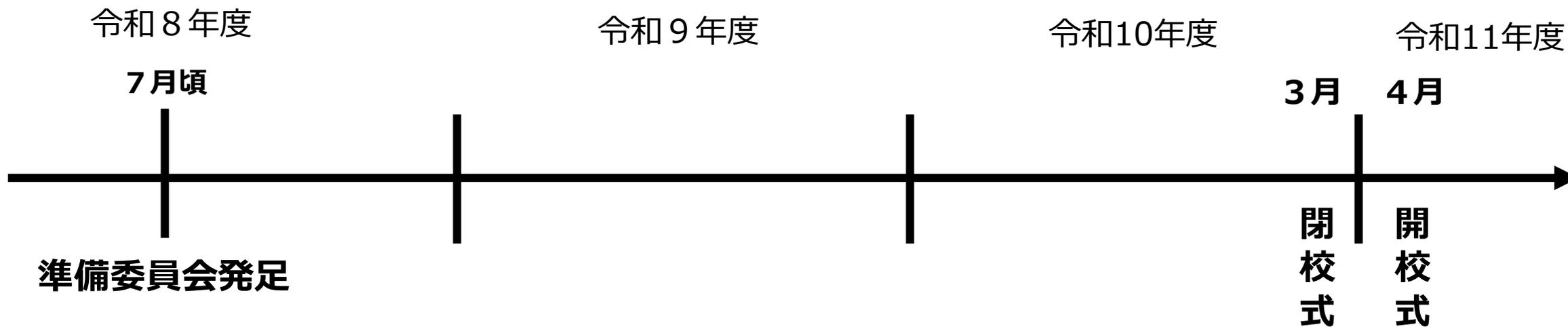
※資材・人件費の上昇、働き方改革による工期延長等により、現在の更新費用はさらに高くなっています。



※本資料は令和7年1月時点でのイメージで、
確定ではありません。御了承ください。

スケジュール（案）

井泉小・三田ヶ谷小・村君小再編成準備委員会を例としたイメージです。



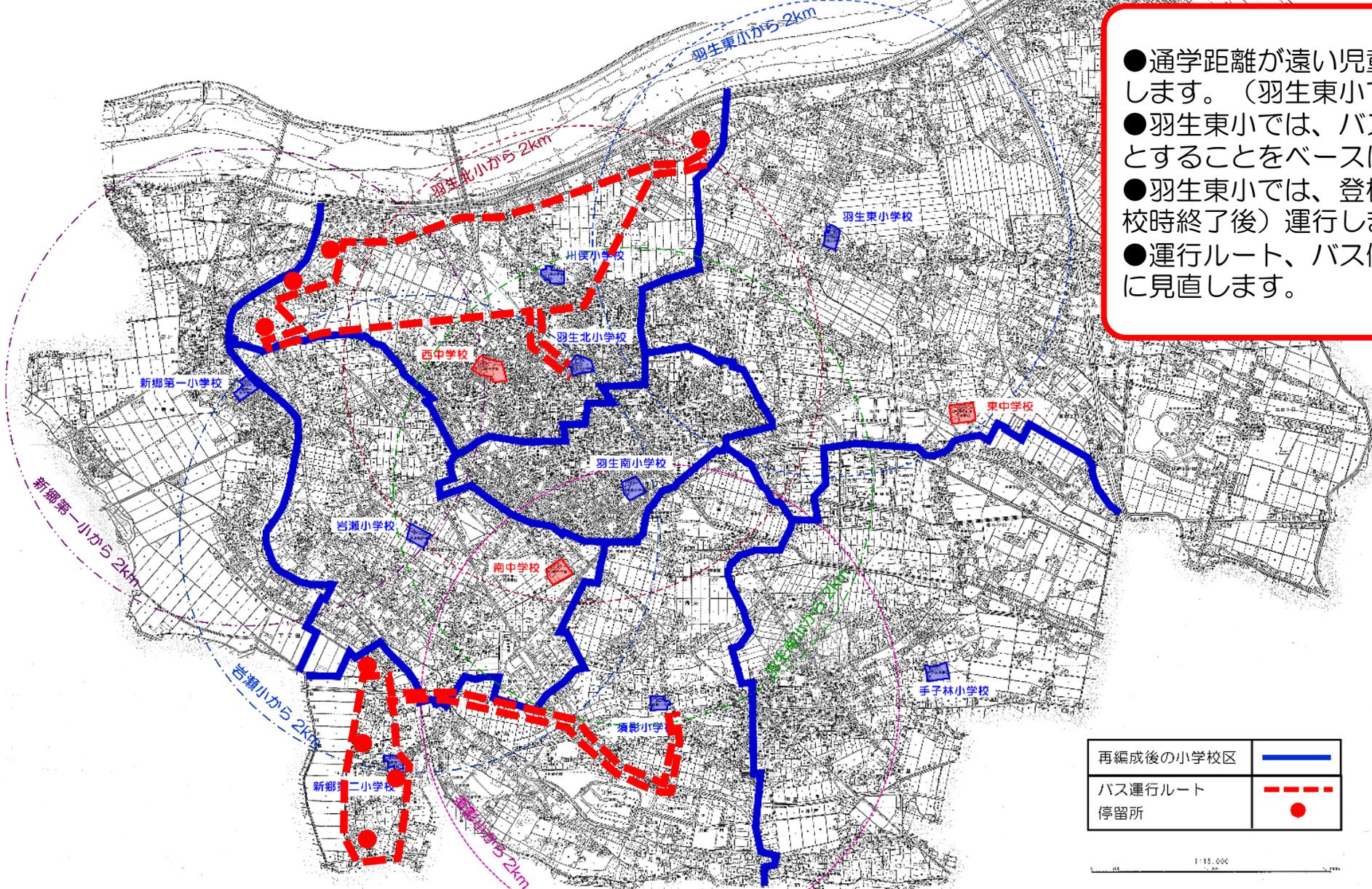
校名・スクールバス・通学路・P T A等の開校に必要な事項の検討
跡地利用・地域コミュニティに関する協議

※本資料は令和7年1月時点でのイメージで、
確定ではありません。御了承ください。

7 スクールバス運行イメージ

井泉小・三田ヶ谷小・村君小の再編成を例としたイメージです。

※本資料は令和7年1月時点でのイメージであり、
確定ではありません。御了承ください。



- 通学距離が遠い児童はバスに乗車することとします。(羽生東小では、2kmを基準に協議)
- 羽生東小では、バスでの登校時間を45分以内とすることをベースに協議しています。
- 羽生東小では、登校1便、下校2便(5, 6校時終了後)運行します。
- 運行ルート、バス停は、必要に応じ年度ごとに見直します。